

コース長挨拶	1
教職員から	2
学生から	3
卒業生から	4
2022年度の進路指導について	5
2022年度進路先一覧	5
2022年度人間情報工学コース日誌	6
2022年度受賞・表彰	7
人間情報工学コーススタッフ紹介	8
2023年度人間情報工学コース役割分担	8
編集後記	8

発行◎秋田大学 理工学部 数理・電気電子情報学科 人間情報工学コース

Human-Centered Computing Course, Akita Univ.

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 Tel.018-889-2785 Fax.018-837-0408

<https://www.ie.akita-u.ac.jp/>

コース長挨拶

人間情報工学で、サキホコレ

景山 陽一

入学された皆さん、進級された在校生の皆さん、誠におめでとうございます。残念ながら、進級が叶わなかった方や成績が伸び悩んだ方は、その経験や思いを糧とし、これからの歩みを丁寧に進めていただきたいと思います。

さて、先日久しぶりに会食をする機会がありました。このところ、マスク越しの会話が続いておりましたので、マスクに隠れていた表情の豊かさ、見慣れていたはずの表情の目新しさに驚きました。顔が半分見えないということ、オンラインで話すということは、やはり情報量が随分と少ないなあと再認識した次第です。

私たちは日常生活において、相手の微細な動きや表情を無意識のうちに読み取り、コミュニケーションを行っています。それは目や口角(口の両わき)などの顔の部位の動きだったり、声のトーンだったりします。私の知り合いの一人は、面白いことを言う前に唇の右上がピクピクしますので、そのサインを見つけたときには、投げられたジョークを漏らさないで受け取ることができるように、会話に集中します。

直接会ってコミュニケーションをとることが一番なのですが、例えば、遠くに住んでいる祖父母の体調や気持ちを情報技術の利活用により理解し、それを家族の方に伝えることができれば、距離や空間に制限されることなく、相手の気持ちに寄り添うことが可能になります。

最近はオンライン会議や授業など、遠方にいてもリモートで繋がれることが日常的となり、簡単に情報が共有できるようになりましたが、「共感の共有」は難しい部分もあります。つまり、伝えやすい言語情報ではなく、非言語情報を伝える技術の開発が今後の課題と考えています。このため、私たちの研究グループでは、画像などのセンシングされた情報を手掛かりにして、人の気持ちや体調を理解するための技術開発に取り組んでいます。具体的には、発話に伴って動く唇の動き、表情、顔の表面温度、視線、体動など、日々の私たちの動作を対象として検討を行っています。例えば、eスポーツは認知症予防と認知機能維持向上に繋がると考えられることから、高齢者の皆さんがeスポーツを実施しているときの関心の程度や感情の種別、体調などを定量的に検出し、その

効果を明らかにしたいと考えています。カーレースのゲームをしているときの被験者の方の表情について言いますと、他の車に追い越された時や、他の車を追い抜いた時に、いずれも一瞬微笑んだような表情が表れやすいようです。追い越された時は照れ隠しのような笑みとなり、逆に追い抜いた時にはうまくいったことに対する喜びの笑みとなります。同じ「笑み」に分類される表情であっても、その表情が表出するヒトの気持ちは異なることがあります。ヒトの気持ちを理解する面白さと難しさを考えさせられます。

国連では、World Happiness Report 2022(世界幸福度報告2022)を発表しています。これは社会的支援や健康寿命、社会的な自由、寛容などを指標として順位付けするもので、5年連続でフィンランドがトップとなっています。なお、北欧の国の評価は高い傾向があり、日本は残念ながら54位にとどまっています。フィンランドでは、ワークライフバランスやウェルビーイング(well-being)を意識した生活をされていると聞いたことがありますが、私どものスコアを上昇させるためのヒントはここにあるように思います。また、ワークライフバランスを推進するためには、業務効率や生産性を高める必要があり、業務の本質を見極めて、メリハリをつけること、デジタル化を図ることが重要ですが、これらの実現に向けてカギとなるのは、私たちが専門とする“人間を中心とした情報工学”になります。

今後のデジタル社会で必要とされる人材は、(1)将来自分が「やりたいこと」や「やるべきこと」から逆算して物事を決定できる人、(2)情報技術を使いこなせる人、(3)論理的・構造的に考えながら、行動できる人と思います。どれだけデジタル社会が発達したとしても、人と人のつながりが大事であり、むしろ物理的な距離があるからこそ、そのつながりの質を高めることが重要です。また、身近な日常生活における課題解決に向けて、それぞれが目標に向かって、努力を積み重ねることの大切さを感じます。人間情報工学に関する学修、研究開発や利活用を通じて、皆さんの未来が咲き誇るように、私たちスタッフは全力で応援します。

iPS細胞

内海 富博

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、進級された皆さんもおめでとうございます。残念ながら留年された方も、自分を成長させる期間と考えて、焦らず、着実に成長されることを期待しております。

さて、表題の「iPS細胞」というものをご存知でしょうか？人間の皮膚や血液などの体細胞に多能性誘導因子というものを導入することで、様々な組織や臓器の細胞に分化する多能性幹細胞となり、この多能性幹細胞が「iPS細胞」と呼ばれています。iPS細胞はいろいろな臓器や組織を作成できることから、再生医療や病気の原因の解明への応用が期待されています。

これから皆さんが学ぶ(既に学んでいる)「情報技術」も、iPS細胞のように様々な分野に変化します。例えば、スポーツでは、昨年開催されたサッカーワールドカップで「三苦の1mm」でも話題になったVAR(ビデオアシスタントレフェリー)として導入されています。ボールに内蔵されたセンサーからの情報や多数のビデオ映像から、審判が下す判定の補助を行っています。このような技術はサッカーに限らず、テニスや野球など多くのスポーツで導入されています。また、工事現場では、1人のオペレータが複数の工事車両を遠隔操作することで、作業事故の回避や人手不足への対応を可能としています。ここでも遠隔操作に必要な通信技術を含む情報技術が支えています。他にも農業や医療、商業、製造業など、あらゆる分野に情報技術が必要とされています。しかし、情報技術によるデジタル化の傾向は、今に始まったものではなく、既に皆さんの身の回りにも浸透しています。ほとんどの家電製品はコンピュータで制御されていますし、自動車もエンジンを初めとして様々なものがコンピュータで制御されています(組み込み技術とも呼ばれます)。

組み込み技術に関連して、私が学生の頃に見た「新電子立国」というテレビ番組で、印象に残っている言葉があります。「良いソフトウェアはプログラムが書けるからできるものではない。その道のプロがプログラムを学んで、プログラミングに参加することで、良いプログラムになる」と言う言葉です。例えば、自動車のエンジンに詳しいエンジニアがプログラミングに参加することで、エンジンの性能を限界まで引き出すことが可能となります。学生の皆さんには、「情報」の枠に囚われず、いろいろな事に興味を持って取り組んで欲しいと思います。皆さんが興味を持って取り組んだこと(点)がいつれつながり、皆さんの更なる成長につながると思います。まずは一歩踏み出してみましょう。

AI時代の風、 学習者はどう乗れる？

陸 恣 (Lu Min)

2022年9月1日に人間情報工学コースの助教として着任した陸 恣(るう みん)と申します。出身地は中国江蘇省常州市です。秋田に来る前に、中国の北京や日本の関東、九州にも住んだことがあります。雪国は初めてですので、いろいろ勉強しています。これからよろしくお願いします。

最近、話題になったChatGPTにハマっています。ChatGPTとは、ChatGPT自身の回答によりますと、「OpenAIによって訓練された大規模な言語モデルです。人工知能に関する様々な質問に回答し、自然な会話を模倣することができます。2021年までの最新の知識を持っており、精度の高い回答を提供することができます」といたAIチャットサービスです。従来のチャットボットに比べ、幅広い領域に対応でき、文脈を「理解」したような回答が生成できる印象です。その背後にあるニューラルネットGPT-3は、1750億個のパラメータを持つ大規模なモデルです。私自身も試したところ、遊びのような質問応答だけでなく、文書生成や要約、翻訳、文法チェックなどのタスクを、クオリティ高く素早く遂行することができて驚きました。

もちろん、ChatGPTはまだ本物の知能にたどり着いていません。言語モデルなので、言っていることを本当に「理解」していません。ロジックと常識に基づいた推論が苦手であり、四則演算を間違えることもあります。とは言え、現在のレベルでも、業界には十分なインパクトを与えているようです。文書生成系の仕事以外にも、言語記述からコードを生成する機能を活用して、プログラミングのアシスタントとして利用している開発者も増えているようです。一方、米国では、「カンニング」への懸念から、学内での使用禁止などの動きも出始めました。もはや新時代が目の前に来ている実感があります。

では、学習者として、このAI時代の新しい風に乗れるのか、考えてみましょう。知識点を暗記するような学習は、すでに検索エンジンに負けているし、ネットで検索してきた材料の組み合わせを加工して出したレポートは、むしろChatGPTが生成したものより劣るかもしれません。それしかできない人は将来、ChatGPTよりも発展されたAIに仕事を奪われるのではないのでしょうか。一方、人はAIと共存して、単純な仕事をAIに任せて、より創造的活動に専念できる見方もあります。しかし、それは利用されるAIの特性を十分に理解することが前提になると思います。例えば、現在のChatGPTを検索エンジンのように使っている人もいますが、実は大間違いです。ChatGPTのモデルには、最新の情報が含まれていませんし、生成された内容の事実性と正確性も保証されません。

このようなAIが活用される時代こそ、学習者として、問題発見と解決の能力や批判的思考力を養うことが、さらに重要になります。AI時代に備えるために重要なポイントは次の通りです。

- 1 技術的なスキルを身に付ける:AI技術は急速に進化しており、常に最新の技術に関する知識を得ることが大切です。
- 2 専門性を持つ:AI業界は多様な分野にまたがっています。自分が興味を持っている分野に絞り、そのスペシャリストとしての知識を身に付けましょう。
- 3 道徳的な観点からの見方を身に付ける:AIは、倫理的に正当な使い方が必要です。これは、データプライバシーや倫理的な問題に対する理解などが含まれます。
- 4 人とのコミュニケーションを重視する:人間とのコミュニケーション能力を向上させることで、AI技術をより効果的に活用することができます。

以上4つのポイント、実はすべてChatGPTが生成した回答です。人間の学習者として、危機感を持つべきではないでしょうか。

学 生 か ら

人とのつながり

2021年4月入学
木澤 大空

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在学生の皆さん、充実した大学生活を送っているでしょうか。また、進路について考えている人もいます。高校生、新入生にとって大学生活では、どのような生活をするのか気になっている人も多いでしょう。また、在学生は他の人はどのように大学生活を送っているのか気になる人もいます。そこで、私の大学生活を紹介します。

1年生の頃は、新型コロナウイルスの影響で多くの授業がオンデマンド授業やzoom授業でした。唯一の対面授業がスポーツ実技いわゆる体育でした。その少ない時間でなんとか数人と話せるようになりました。しかし、新型コロナウイルスがさらに流行し遠隔授業になりました。そのため関わる人は、同じ部活の人たちだけになりました。そのため、1年の頃はそれほど大学生活を送っている感覚はありませんでした。だから私は、大学生らしさを味わいたかったです。自宅で勉強をすると集中できず、オンデマンドのような授業は後回しにしてしまうこともあり、大学の空き教室を使いその講義の時間中にやるようにしていました。これで少しは大学生らしくできた気がしました。

2年生になり、対面の授業が増え同じコースの人と話す機会が増えました。特に、グループに分かれて動画撮影や動画編集を行い発表する授業では、人との関わりが増えるきっかけになりました。私のグループは、ベトナムとマレーシアの留学生の人とグループでした。はじめは不安でいっぱいでしたが、留学生の人たちも気さくな人ばかりで話しやすく楽しく話し合いが進んでいきました。動画撮影で海や秋田のシン

ボルに行き、親交を深めました。今では、プライベートでもいろいろ話せる仲になりました。また実験やプログラミングは、基本一人で進めていくことが多いですが周囲の人と相談や知恵を出し合い行っています。人によって考え方も違うので、自分では考えつかなかった方法が見つかることがあります。学びが深まっていきます。そのため一人一人の個性が出て、1つの答えに縛られないことが良いと思いました。

これまでの大学生活で感じるの、人との関わりが増えていくたびに大学生活の実感がわき、楽しめると思いました。皆さんにも、人との関わりを大事に生活してほしいと思います。

散歩とサウナ

2020年4月入学
木内 匠

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生の皆さん、日々お疲れ様です。新入生の皆さんはこれからの大学生活に対して、期待や不安など様々なものを感じていると思います。私からは、授業の課題やテスト勉強で行き詰った時やストレスを感じた時の私なりのリフレッシュ術である、サウナと散歩を紹介させていただきたいと思います。

私は2020年4月に入学し、秋田大学の生徒となりました。しかし、その大学生活は新型コロナウイルスの影響により、思い描いていたものとはかけ離れたものとなりました。入学式は中止となり授業はすべて遠隔授業、初めて大学に足を運んだのは夏ごろでした。私はサークルや部活に所属していなかったため友達もできず、毎日自宅で授業を受けるだけの日々を送っていました。そのような日々を送っていると当然ストレスが溜まります。このままではダメになってしまうと思っていた時に出会ったのがサウナと散歩でした。

サウナとの出会いは大学1年の秋頃でした。高校からの友人に温泉に誘われ、そこで友人に紹介してもらいました。やり方はいたってシンプルで、限界までサウナで汗をかく→水風呂を何回か繰り返した後に露天風呂にあるベンチでゆっくりと外気浴します。外気浴の最中にふわふわと宙に浮かんでいるような感覚がおとずれ、リラックスできます。「ととのう」と言われていますね。秋田駅周辺に華の湯、こまち温泉、秋田温泉プラザなど「ととのう」が可能な温泉があるのでよかったら試してみてください。

散歩はよく勉強で行き詰った時にします。散歩には抑うつや精神的な疲労の回復効果があり、手に付けがたい課題を行う際に効果的です。また認知機能や想像力向上の効果もあり、普段机に向かって考えるよりもはるかに質の良いアイデアが浮かびやすくなります。私はよく天気の良い日の夜や早朝に、好きな音楽をかけながら散歩しています。普段見慣れた光景でも時間帯を変えるだけで、人通りやライトの有無などで全く違う光景になるため新鮮な気分を味わえます。

以上私なりのリフレッシュ術でした。皆さんが日々の中で疲れやストレスを感じた際に参考になれば幸いです。皆さんの大学生活が充実したものになることを心より願っています。

人との繋がりを力に

人間情報工学コース
水戸部研究室 令和5年3月学部卒業
佐々木 朱音

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境に不安を抱いている方がほとんどだと思います。ここでは、私の4年間の学生生活の一部を紹介させていただきます。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

私が学生生活で最も力を入れたことは、サークル活動と学業の両立です。私は「秋田大学祭実行委員会」という団体に4年間所属し、年に一度開催される大学祭の準備や運営に携わりました。委員会の仲間との活動だけでなく、大学職員の方や学外の企業の方との打ち合わせも経験しました。活動を通して、立場や価値観の異なる相手とのコミュニケーションの難しさを学び、大きく成長できたと感じています。特に忙しかった期間は1年次の冬からおよそ1年間です。会計を務め、委員長や副委員長と共に委員会全体を引っ張る役割を担ったことで打ち合わせへの参加が増え、多い時には約1～2時間の打ち合わせに週に3回参加していました。授業の課題の提出締切や試験が重なり大変な時期もありましたが、「授業内容をできるだけ授業時間中に理解できるように集中すること」、「難しい課題には友人と協力し合って取り組むこと」、「どれほど忙しくても食事と睡眠を疎かにしないこと」の3点を意識したことで、4年間で一度も体調を大きく崩すことなくサークル活動と学業の両方に全力で取り組むことができました。

私の学生生活は、委員会の仲間や気の合う友人と出会えたからこそ充実した4年間になったと感じています。大学での学生生活では、自分で自由に使える時間がたくさんあります。一人でリラックスして過ごす時間ももちろん大切ですが、人との繋がりを広げる、または深くすることに時間を掛けることも同じくらい大切だと思います。サークル活動やアルバイトなど、新しい仲間に出会えそうなことを見つけたらぜひ積極的に挑戦してみてください。そこで得た人との繋がりは、皆さんが困ったときにきっと力になってくれるはずです。皆さんがこれから良い仲間や友人と出会い、学生生活が楽しく充実したものになることを願っています。

Information of
情報

自分の力になった 大学での経験

人間情報工学コース
景山研究室 令和5年3月博士前期課程修了
本田 悠将

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。早いもので、新型コロナウイルスの流行から約4年が経とうとしています。高校入学時から、今までと異なる学校の教育方針や環境下でとても努力されたかと思います。その中で、大学生としての一步を踏み出す新入生の皆さんが、ご活躍できることを祈念しております。

私は、高専を卒業し、この大学へ編入してきました。高専といえば就活に強いイメージを持たれている方が多いと思います。なぜ編入したのかと疑問を持たれる方がいると思いますが、理由を考えると就職に対し自信がなかったから、就活する自分のイメージが持てなかったからだと思って思います。その中で大学に入学してよかったと思うことが2つあります。1つ目は「人前で物事を説明する経験値」が得られたことです。大学に入学する前の私は、正直、人前で話すのが苦手でした。大学ではこれを克服するために、経験を積むことを目標にして、学会発表、先生方の授業を補助するティーチングアシスタントを行ってきました。特に学会発表では、最初は周りの友人や過去に発表した人を真似るだけで、いざ質問されると回答できないことが多くあり、先生や先輩に助言をたくさんいただいたことを覚えています。そこで私は、ただ教えてもらうのではなく、今抱えている問題を言葉にして言語化することを心がけました。その結果、以前より人前で話すことに、自信がついたと実感しています。

2つ目はたくさんの「人とのつながり」が得られたことです。大学では、クラス内だけでなく、授業によっては他の学科の方や留学生との関わりを持つことが多いです。人と関わる場所は、なにも大学内に限られているわけではありません。大学外でもたくさんあります。私の場合はアルバイト先でした。アルバイト先では年齢が10歳以上離れている方と働いており、お客様への接客の仕方からメニュー表の並べ方まで様々なことを教えていただきました。些細な所まで考えることが多く、臨機応変に対応することがとても大変ですが、笑顔で店を後にするお客様を見るだけでやりがいを感じています。皆さんも一度、経験してみたいはいかがですか？人と関わりたいと思う方には、とても良い刺激になると思います。

新入生の皆さん、ぜひやりたいと思うことは積極的に実践してみてください。そこで得た知識や人との関わりはとても良い経験になり、様々な形で皆さんの今後に生きてくると思います。皆さんが充実した学生生活を送れることを願っています。

今年度から有川が人間情報工学コースの進路指導担当教員を務めております。今年度の学部4年生の大学院への進学率は66%でした。当コース(理工学部)では、学院一貫教育(学部4年間+大学院2年間)を基本と考えております。学部3年次までのカリキュラムは、主に情報技術の基礎的な内容であり、解くべき問題は与えられたもので、受け身のカリキュラム内容と言えます。学部4年次からは、卒業課題研究(卒論)に取り掛かり、能動的なカリキュラム内容となりますが、生まれて初めて研究を行う人がほとんどで、一般に卒論のテーマは教員から与えられたものであり、まだ丁稚奉公の時期と言えます。卒論を完成させる課程である程度は、研究とは何かが分かりますが、自分が設定した問題を取り組んだ訳でもなく、まだ十分とは言えません。大学院前期課程(修士)に進学してから、本格的に能動的な研究活動を行います。この研究活動では、研究として取り組む問題自体を大学院生「自ら」設定し、定式化を行い、解決方法を設計・提案し、ソフトウェアの実装や実証実験で提案した解決方法の有効性を検証し、その結果を学会の論文や国際会議で発表を行う、総合的な研究力の素養を身につけます。この一連の能動的な研究活動を経験することにより、IT業界の状況に対する広い視野と基礎力を身に付けることができ、将来は

企業などの組織で上に立ち、その組織を支える立場を務めることが期待されます。一般に、学部4年生で企業に就職した人は、与えられた問題としての下請け的な仕事を行う場合が多いです。国立大学では、将来、企業の幹部や研究者になる人材を育てる使命があり、学生の皆さんに研究力を身につけていただくために、大学院への進学をお勧めしています。ご存じのように、日本では研究力の優れた人材が少なくなりつつあり、日本の産業界の衰退が危ぶまれています。

学部卒業者と大学院修了者の生涯賃金の差は、5000万円程度と言われています(参考:<https://acaric.jp/articles/column/1022>)。就職はゴールではありません。むしろ、スタートです。就職活動の面接のときに、就職をスタートと考えている人は高く評価されます。企業から何を「もらう」のかを考えている人と、企業に何を「与える(貢献する)」ことができるのかを考えている人かは、受験者の振る舞いから分かるものです。また、企業は、学歴では人を選びません。その人個人の能力と伸びしろを見ています。是非、研究力という強い武器を身につけて、地域・社会・日本・世界に貢献する高い志を持ち続ける柔軟な人材になってください。

表1 人間情報工学コース大学院生・学部生の進路状況(人数)

	大学院進学	一般企業	公務員	その他	未定	合計
大学院2年次	1	19	0	0	0	20
学部4年次	23	12	0	1	0	35

令和4年度卒業生 修了生進路先一覧

◆大学院博士前期課程修了生

[進学]

秋田大学大学院博士後期課程(1名)

[就職]

秋田ケーブルテレビ、アクセンチュア、NTTデータ、キオクシア岩手、清水建設、シャープセミコンダクターイノベーション、セントケア・ホールディング、ソフトバンク、大日本印刷、TIS、東京海上日動システムズ、トヨタシステムズ、トヨタ自動車東日本、日本ビジネスシステムズ、ニコンシステム、パナソニックシステムネットワークス開発研究所、日立ソリューションズ・テクノロジー、マイクロンメモリジャパン

◆学部卒業生

[進学]

秋田大学大学院博士前期課程(22名)、他大学大学院(3名)

[就職]

SCSKニアショアシステムズ、ADK富士システム、FFRIセキュリティ、NTTデータ先端技術、NTTデータ東北、国際ソフトウェア、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ、トイックス、日立システムズ、菱明三菱電機機器販売、明電舎、ラキール

令和4年度 人間情報工学コース日誌

2022
令和4年

4月 4日 在校生遠隔ガイダンス、留学生面談
4月 5日 入学式
4月 5日 初年次ゼミ「数理・電気電子情報学科」開始
4月 6日 学部新入生・大学院新入生対面ガイダンス(数理・電気電子情報学科123名、学部3年次編入3名、大学院博士前期課程20名、大学院博士後期課程4名の入学)、学部2年次・新入生遠隔教職ガイダンス
4月 7日 授業開始
4月13日 大学院博士前期課程2年次個人面談1回目(4月15日まで、担当: 景山陽一教授、有川正俊教授)
4月20日 大学院博士前期課程1年次個人面談1回目(4月25日まで、担当: 景山陽一教授、有川正俊教授)
4月21日 4年次個人面談1回目(4月22日まで、担当: 有川正俊教授、橋本仁准教授)
5月 9日 2年次個人面談1回目(5月16日まで、担当: 有川正俊教授、白井光助教)
5月23日 3年次個人面談1回目(6月6日まで、担当: 有川正俊教授、中島佐和子講師)
6月 4日 高大接続授業(担当: 景山陽一教授、水戸部一孝教授、有川正俊教授)
6月14日 1年次個人面談1回目(7月5日まで、担当: 景山陽一教授、内海富博助教)
6月20日 理工学部編入学試験(一般)
6月22日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当: 景山研究室、有川研究室)
7月 4日 大学院理工学研究科博士前期課程入試(推薦)
7月 4日 秋田県立大館鳳鳴高等学校研究室訪問(対面)「障害物を検知できる移動ロボットの作成」(担当: 橋本仁准教授、内海富博助教)
7月 6日 本荘高等学校出前講義(担当: 有川正俊教授)
7月 7日 角館高等学校出前講義(担当: 水戸部一孝教授)
7月20日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当: 水戸部研究室、橋本研究室)
7月23日 通信教育講座学内スクーリング(担当: 景山陽一教授、石沢千佳子准教授、白井光助教、鄒敏助教、伊藤悠大技術職員)
7月25日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第1回>講演会: R4人間情報工学コース、進路指導に関する授業「大学院進学と就職活動開始時期に関して」(2022.7.25)の課題、講演者: 有川 正俊教授
7月26日 能代高等学校インターンシップ受け入れ(担当: 石沢千佳子准教授)

7月30日 オープンキャンパス
8月 9日 大学院博士後期課程個人面談1回目(8月17日まで、担当: 景山陽一教授、有川正俊教授)
8月31日 大学院理工学研究科博士前期課程入試(一般、私費外国人留学生)(9月1日まで)
10月 1日 理工学部総合型選抜1入試
10月11日 4年次個人面談2回目(10月12日まで、担当: 有川正俊教授、橋本仁准教授)
10月12日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当: 景山研究室、橋本研究室)
10月13日 秋田県立秋田北高等学校の2年数理探究クラスの実験・実習(対面)「画像処理の基礎とセンシングデータ解析」(担当: 景山陽一教授、石沢千佳子准教授、白井光助教、鄒敏助教、伊藤悠大技術職員)
10月17日 2年次個人面談2回目(11月9日まで、担当: 有川正俊教授、白井光助教)
10月21日 大学院博士前期課程2年次個人面談2回目(担当: 景山陽一教授、有川正俊教授)
10月24日 大学院博士前期課程1年次個人面談2回目(10月25日まで、担当: 景山陽一教授、有川正俊教授)
10月25日 秋田西高等学校出前講義(オンライン)(景山陽一教授)
10月25日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第2回>報告会: 学部生と大学院生による就職活動・進路選択に関する体験報告、講演者: 理工学部数理・電気電子情報学科人間情報工学コース4年次 柴田彩冬氏、八嶋竜也氏、大学院理工学研究科数理・電気電子情報学専攻人間情報工学コース博士前期課程2年次 松橋賢汰氏、三浦有沙子氏
11月 4日 北海道帯広柏葉高等学校での講演会(担当: 水戸部一孝教授)
11月16日 キャンパスクリーンデー<構内清掃>(担当: 水戸部研究室、有川研究室)
11月21日 情報処理学会東北支部研究講演会
11月21日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第3回>講演会(情報処理学会東北支部講演会): デジタルツインの可能性とその未来 ~ VUCA時代の社会基盤の在り方 ~、講演者: NTT東日本 秋田支店長 澤村 誉氏
11月24日 3年次個人面談2回目(11月29日まで、担当: 有川正俊教授、中島佐和子講師)
12月 5日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第4回>講演会: 卒業生による進路に関する講演会、講演者: 東日本電信電話株式会社 経営企画部 営業戦略推進室 黒川 圭二氏、アズビル株式会社 工程開発部 島崎 徹氏、リコー ITソリューションズ株式会社 東日本開発センター秋田第2開発部第1グループ 竹中 蒼氏
12月 5日 令和4年度大学院博士前期課程修士論文中間審査(中間発表会)(12月6日まで)
12月 5日 情報処理学会東北支部研究会(12月6日まで)
12月 7日 1年次個人面談2回目(12月23日まで、担当: 景山陽一教授、内海富博助教)

12月16日 長野県長野県木曾青峰高校出前講義(石沢千佳子准教授)

12月17日 超スマート社会におけるキャリアデザイン<第5回>プログラミングハッカソン、協力:444株式会社

12月26日 秋田県立本荘高等学校 数理探究ゼミ(秋田大学連携授業)「データの可視化と最新XR(クロスリアリティ)体験」(担当:水戸部一孝教授、藤原克哉准教授、中島佐和子講師、齋藤正親技術専門職員)「身の周りの情報をIoT技術で見える化しよう」(担当:橋本仁准教授、内海富博助教)

1月20日 理工学部総合型選抜Ⅱ入試、理工学部私費外国人留学生入試

1月23日 大学院博士前後期課程個人面談2回目(1月26日まで、担当:景山陽一教授、有川正俊教授)

2月 6日 令和4年度大学院博士前期課程修士論文最終審査会(2月7日まで)

2月 7日 3年次個人面談3回目(2月9日まで、担当:有川正俊教授、中島佐和子講師)

2月 8日 令和4年度卒業課題研究発表会(2月9日まで)

2月25日 一般選抜前期日程

3月12日 一般選抜後期日程

3月22日 聖霊女子短期大学付属高等学校での進路講演会「情報技術が作り出す私たちの暮らし」(担当:景山陽一教授)

3月23日 秋田大学卒業式



1月14日 大学入学共通テスト(1月15日まで)

受賞・表彰

学会賞受賞

令和4年 4月 電気学会優秀論文発表賞
松井解氏(2022年3月博士後期課程修了、景山研究室)

令和4年 6月 日本素材物性学会 令和4年度(第32回)年会、優秀論文発表賞
伊藤希穂氏(博士前期課程1年、景山研究室)

令和4年 6月 情報処理学会東北支部奨励賞
田村智一氏(博士前期課程1年、有川研究室)
佐藤光喜氏(2022年3月博士前期課程修了、水戸部研究室)
松橋賢汰氏(博士前期課程2年、水戸部研究室)

令和4年 9月 ICISIP2022 Best Presentation Award
杉原海斗氏(博士前期課程2年、景山研究室)

令和4年 10月 IEEE Sendai WIE、Sendai WIE Awards [The Encouragement Prize]
高松未佳氏(博士前期課程2年、景山研究室)

令和4年 10月 ACM SIGSPATIAL 2022 Travel Grant Award
佐々木一織氏(博士後期課程1年、有川研究室)

令和4年 12月 第1回北東北地区大学高専交流会 優秀発表賞
高松未佳氏(博士前期課程2年、景山研究室)

令和5年 3月 情報処理学会第85回全国大会、学生奨励賞
菊地亮太氏(博士前期課程2年、景山研究室)
杉原海斗氏(博士前期課程2年、景山研究室)
湯征宇氏(博士前期課程1年、景山研究室)
目黒大樹氏(博士前期課程1年、景山研究室)
藤原稜大氏(博士前期課程1年、有川研究室)

令和 5年3月 情報処理学会東北支部奨励賞
菊地亮太氏(博士前期課程2年、景山研究室)
安藤遼馬氏(博士前期課程2年、水戸部研究室)

令和 5年3月 令和4年度 日本知能情報ファジィ学会東北支部研究会 研究会奨励賞
児玉楓太氏(学部4年、景山研究室)

成績優秀表彰

令和 4年4月 令和3年度 人間情報工学コース長表彰
2年次 綱川凌太氏

令和 5年3月 令和4年度 情報処理学会東北支部学生奨励賞
4年次 八嶋竜也氏

令和 5年3月 令和4年度 北光会賞
4年次 佐々木朱音氏

人間情報工学コース プログラミングハッカソン

令和4年 12月 最優秀賞(第1位):加賀谷 星也氏
優秀賞(第2位):山室 柊太氏
優秀賞(第3位):木内 匠氏

※受賞時の学年・所属

人間情報工学コース スタッフ紹介



教授 景山 陽一



教授 水戸部 一孝



教授 有川 正俊



教授 石沢 千佳子



准教授 橋本 仁



准教授 藤原 克哉



講師 中島 佐和子



講師 白井 光



助教 内海 富博



助教 鄒 敏



助教 陸 忞



技術専門職員 齋藤 正親



技術職員 佐藤 諒



技術職員 伊藤 悠大



協力教員
准教授 横山 洋之



事務室
事務系スタッフ 佐藤 功子

令和5年度 人間情報工学コース 各役割分担

- ◎コース長
- ◎就職担当(大学院および学部学生)
- ◎学年担任

景山 陽一
有川 正俊
鄒 敏
内海 富博
3年次 白井 光
4年次 中島 佐和子

編集後記

Information of 情報 Vol.33 はいかがでしたか？ 2022年度も新型コロナウイルス感染症による影響が続きましたが、授業や課外活動などの対面活動が緩やかに回復してきています。卒業生や在校生のメッセージからは、その回復に向かって、「人と人とのつながり」を大切に充実した大学生活を送った様子が窺えます。また、1名の新任教職員を迎えて、2024年の新学部に向けて元気で勇往邁進するコースになっています。ご多忙の中ご寄稿くださいました皆さまに心より感謝いたします。ありがとうございました。(編集担当:鄒敏)